

第2回大川村議会維持対策検討会議議事概要

日時 平成29年7月21日(金) 11:00~12:10

場所 高知県自治会館 3階第1会議室

【議事次第】

- 1 開会
- 2 高知県知事あいさつ
- 3 議事
 - (1) 議会維持に向けた課題について
 - (2) 大川村プロジェクトの加速化について
 - (3) その他
- 4 閉会

○議事概要

【高知県知事挨拶】

- ・この会議では、議会維持に向けた対策として、例えば村議会をどういう形で運営すれば議員のなり手が増える環境が整うのか、また、どういう形で議会の取組について関心を高めていくのかといった課題についてしっかり検討を進めていくとともに、議員のなり手になろうという若い人たちがもっと増えていく根治対策としての大川村プロジェクトの更なる加速化について共に話していただければと考えている。
- ・これまでも大川村と県は、ともに大川村プロジェクトを力強く推進してきた。新たなはちきん地鶏の売り込みの大きなステップとして食鳥処理・加工施設が間もなく完成する。これまでの取組でも、20代の移住者の方が増え、人口減少率が県内の市町村の中で一番改善幅が大きくなるなど実績を上げている。新たに食鳥処理・加工施設ができることで、具体的に大きな歩みを踏み出せていくこととなる。
- ・今日の検討会議では、アンケート結果を踏まえた議会のあり方や村政への関心を高める取り組み、さらには、大川村プロジェクトについては、はちきん地鶏について話が展開されるということだが、村民の思いを大事にし、議会・村政に対する関心を高める取り組みを続け、併せて地産外商、観光振興につながる事業について、具体的に5W1Hを定め、PDCAサイクルを回しながら展開していくこととなればありがたい。
- ・私は、大川村議会が維持できることを強く願っている。大川村は県内で人口が一番少ない市町村であるが、そのような最も小さな市町村であっても、地産外商を通じて若い人たちが住み続けられるような、村として力強く歩みを進めていけるような、そういう姿をぜひ実現したいと考えている。そうなれば、全国の小規模な市町村にも大いに勇気を与えることとなるだろうと考えており、県としても我がこととして取り組みを共に進めてさせていただきたいと考えている

【議事1：議会維持に向けた課題について】

- ・村民アンケート調査結果について、資料1に基づき説明（田淵委員）
- ・議会維持に向けた課題（村政への関心、兼職兼業制限、議員報酬、議会運営）に係る先進事例や現状等について、資料2に基づき説明（神田委員）

(意見交換)

・アンケートの自由記載欄で、若者や女性が議員になることの期待が示されているが、村はどう思うか。(大崎委員)

→若者や女性に議員になってもらうことは望ましい。そういった方が議員になりづらいのであれば、対応策を考えていかなければならない。(明坂委員)

・アンケートでは、議員が兼業しやすい仕組みが必要との意見が多かったが、村はどう思うか。(大崎委員)

→働きながら議員活動をしやすくする仕組みについてはさらに検討を深めていく必要がある(明坂委員)

・資料2のP9の休日議会・夜間議会について、全国の町村でも例が少なく、廃止したところや、廃止すべきとの意見が出てきてようだが、効果がないものと考えてよいのか。(近藤諭士委員)

→目的によりけりとする。兼業議員が参加しやすくする目的で、休日夜間議会を毎日のように開催するとなれば、議員や職員の負担を考えると難しい面もあるかもしれないが、傍聴者に来ていただく目的で、住民の方の関心の高いような重要な議題に限って開催するのであれば、一定の効果が見込めるものと考えられ、選択肢となりうるのではないかと。(神田委員)

・村と県の説明及び委員の意見を踏まえて、以下の2点について提案(筒井委員)

1 村内在住の若者にアンケート内容について深掘りして意見聴取を行い、次回の会議で報告したい。聞き取りを行う中で、本人の希望があれば、次回の会議で委員との意見交換の場を設けたい。

2 村内の事業者に対して、従業員が議員になった場合にどのようなサポートができるか、どのようなことが課題となりうるか等について、村の方で調査を行いたい。

・「村政への関心」や「議会の運営」について、アンケートや先進事例を踏まえて対応する必要があると思うがどうか。(梶座長)

→今回のアンケートの結果を見ても、村としても、「村政への関心」や「議会の運営」について、これまで住民の理解足りなかったと受け止めている。次回の会議までに、そのあたりも含めて住民に聞き取りをしていきたい。(筒井委員)

⇒次回会議までに、村の方で以下の作業を行うこととし、次回会議で報告することで決定。

① 村内在住の若者にアンケート内容について深掘りして意見聴取し、意見聴取を行う中で本人の希望があれば次回の会議で意見交換の場を設けるよう準備すること。

② 村内の事業者に対して、従業員が議員になった場合にどのようなサポートができるかなどについて調査すること。

【議事2：議会維持に向けた課題について】

・土佐はちきん地鶏の取組について、資料3に基づき説明(近藤淳委員)

(意見交換)

・大川村プロジェクトの加速化として、「知名度と認知度の向上」と「販売流通の強化」の2つは外商を推進する上で両輪となる取組の課題である。課題解決に向け、村としてどのように考えているか。(土居内委員)

→昨年度の販売先社数(取引先)は現在130社程度だが、通年で安定して出荷販売できているのはこの半分程度。1年を通じて安定的に出荷販売できる売り先を増やしたい。

また、販売先約130社のうち、県内が4割強、県外が6割弱の比率となっており、今後の大きな生産増羽を見据え、首都圏を中心とした県外都市圏での販路を開拓したい。今後、色々な仕掛け作りが必要。(近藤淳委員)

・土佐あかうしでご尽力いただいている山本謙治氏のような著名な専門家について、県の方で畜産振興アドバイザーとして新たに迎えて、土佐はちきん地鶏の知名度や認知度の向上と外商推進につながる取組を行っていくことを検討してはどうか。

また、銀座「まるごと高知」において、地産外商公社の外商先でもある飲食店や量販店の仕入れ担当者や料理人を招いて、土佐はちきん地鶏の試食勉強会を新たに開催するなど、認知度の向上と合わせた販路開拓や販売拡大の取組を行ってはどうか。(山崎委員)

→了解した。大いに期待するし、一緒に取り組んでいきたい。(近藤淳委員)

・秋口には食鳥処理・加工施設が稼働し、年内には県版HACCPも取得される動き。村内で生産から加工までが一貫して行えることとなり、消費者に対しては安心安全を訴求できる好材料が揃うようになると思うが、新たな商品の展開や展望について聞く。(山崎委員)

→朝締めした鶏をその日に届ける「朝締め鶏」のニーズが高いと聞いているが、村内で一貫した取り組みが可能となる中で、今後「朝締め鶏」の出荷も可能であることから、新たな商品として展開をしていきたいと考える。(近藤淳委員)

・締めてから旨味が出始める時間や旨味の保持時間等は、鶏の種類や加工の仕方等により異なると思われるので、県の畜産試験場や工業技術センターなどで研究をしてみたい。(山崎委員)

→村の方ではそういったデータを持ち合わせていない。データに裏付けられたもので販路拡大を進めたい。(近藤淳委員)

・現在、村の認知度が急速に全国的に高まっているところ。ホームページの充実も急ぐ必要もあるし、ふるさと納税の返礼品として、土佐はちきん地鶏商品のラインナップの充実を図ってみてはどうか。

また、地域のレストランや宿泊施設でのメニューを広げたりするなど、地元での展開を嶺北地域で強化してはと思うがどうか。(豊永委員)

→ふるさと納税について、ご指摘のとおりと認識。ホームページの充実を急ぎ、合わせてラインナップの充実を図っていきたい。

村内にとどまらず、提案のような嶺北地域での展開を望むところ。地域本部とともに取組を進めていきたい。(近藤淳委員)

⇒土佐はちきん地鶏について、下記の取組について詳細を詰めた上で、スピード感を持って進めることで決定。

・知名度と認知度の向上や販売流通の強化を後押しする専門家の活用の検討

- ・銀座まるごと高知を活用した業務筋向けの試食勉強会の開催
- ・「朝締め鶏」の商品化に関する試験研究
- ・HPの充実やふるさと納税での返礼品活用
- ・地元飲食店など嶺北地域で行う取組の推進

⇒また、次回の会議は、「観光」をテーマとすることで決定。

【議事3：その他】

- ・次回会議は、9月19日の週に大川村で開催することで決定。